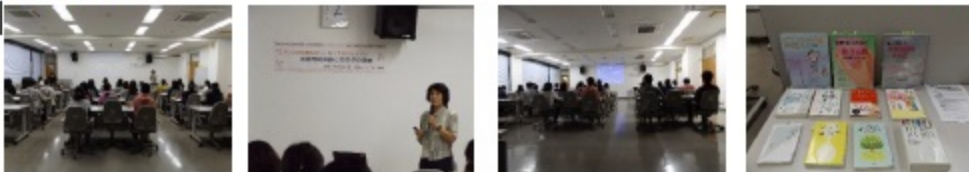


## 事業報告書

【「いつかは産みたい」知っておくとイイ♪妊娠可能年齢とカラダ】

日時	平成 28 年 11 月 19 日 (土) 15:00~17:00
目的	妊娠を望む女性の現状と出産適齢期について学び、啓発することを目的とする。
対象	関心がある方
講師	宮良 美代子 氏 (産婦人科医 美代子クリニック院長)
会場	沖縄県男女共同参画センターていりる3階 研修室 1・2
定員	30 名 [申込者数 33 名]
参加者数	33 名 (男性 2 名・女性 31 名)
講演内容 (概要)	<p>①女性の年齢と妊娠する力と不妊治療の現状 卵子は胎児レベルで 400 万個あるが、出生時には 70 万個になるといった卵巣内の卵胞の変化や、女性の一生の間に排卵する数は 400~500 個であり、その間に排卵する卵子は順番待ちをしており、日常的に浴びる放射線や食事といった様々な影響を受けていると話した。30 歳を越えると女性の自然に妊娠する割合が少しずつ低下し、35 歳から急激に低下、45 歳を過ぎると体外受精、顕微授精を行ってもほとんど妊娠が成立しないと話す。不妊治療にあたっては個人差があることや 43 歳を過ぎると妊娠する事は厳しいとことを患者へ説明していると伝えた。</p> <p>②女性の年齢と病気 子宮頸がんが若い人に増えている事や子宮体がんは閉経後の病気であったが、罹患年齢が下がっており、食生活の影響を受けていると話した。また、性感染症の梅毒が近年増加している事や、クラミジアや淋病が不妊の原因になるとも話した。</p> <p>③年齢と出産の問題 がん治療による卵子・卵巣凍結という手段もあること、最近では卵子凍結という方法もあるが、凍結から解凍し出産する事例が少なく、卵子採取の大変さや金額の問題があると話し、高齢出産では流産率の上昇や分娩異常の増加、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病などの増加、子宮筋腫、子宮内膜、子宮がんなどの合併症が増えると伝えた。</p> <p>④男性の年齢と妊娠に関わる問題 男性の加齢も不妊症、妊娠、出生時に与える影響を話し、精子数の減少、精液量の減少、機能低下、ED、流産率の上昇、出生時の自閉症や統合失調症、多動性障害、うつ双極性障害の増加も報告されていると伝えた。</p> <p>卵子は新しく作られる事はなく、年齢と共に減少し加齢していく。寿命は延びても妊娠しやすい期間はかわらない。妊娠、出産について高齢化はさまざまなリスク上昇と関連しており男性も高齢化により、妊娠や出生児に影響を与えるとまとめた。</p>
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講できてよかった。結婚を早く考えないといけないリアルな問題をなんとなく考えてはいたが、厳しい事だと気づかされた。</li> <li>・今日の講座の内容をパートナーに話して、二人で妊娠に向き合おうと思います。ありがとうございました。</li> <li>・本日はありがとうございました。「いつかは産みたい」そのためにライフプランをしっかりと考えていきたいと思っています。(一部抜粋)</li> </ul>
写真	
主催等	沖縄県・(公財)おきなわ女性財団